

Ver.2

日本初

JaGra
Compass®

ジャグラコンパス

「災害避難場所マップ」 のご提案



洪水/内水氾濫



土石流



津波/高潮



崖崩れ/地滑り



大規模な火事



地震

災害避難場所マップ(ジャグラコンパス)とは?



職場・自宅から一番近い避難場所を抽出

災害時への備えとして活用できる「紙」を利用したマップ生成システムです。

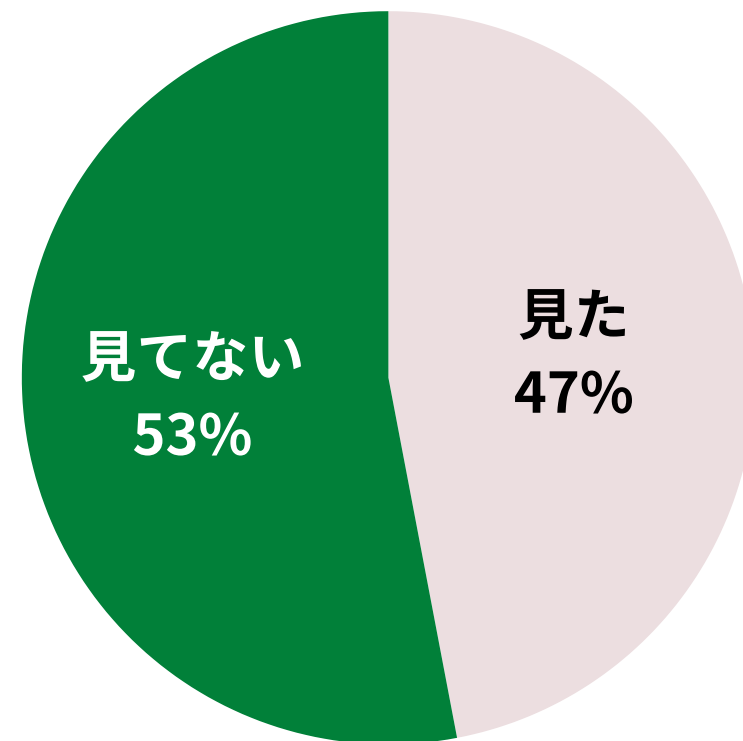
社員や仲間、家族の防災・減災意識を高め、災害から命や暮らしを守る備えを提案します。



意外と知らない避難場所！？

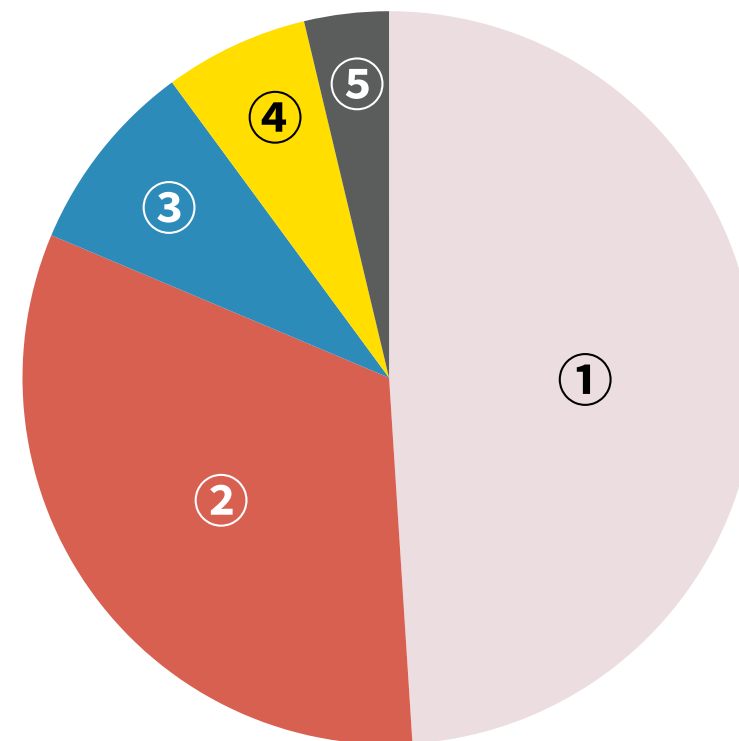
防災に対する備えは、東日本大震災以降高くなったが、調査結果を見ると、**ハザードマップの認知度は高まるも、避難に自信がない人が多数。緊急時はWebやアプリ利用意向が高い。**

Q1.直近1年以内に、
ハザードマップを「見た」



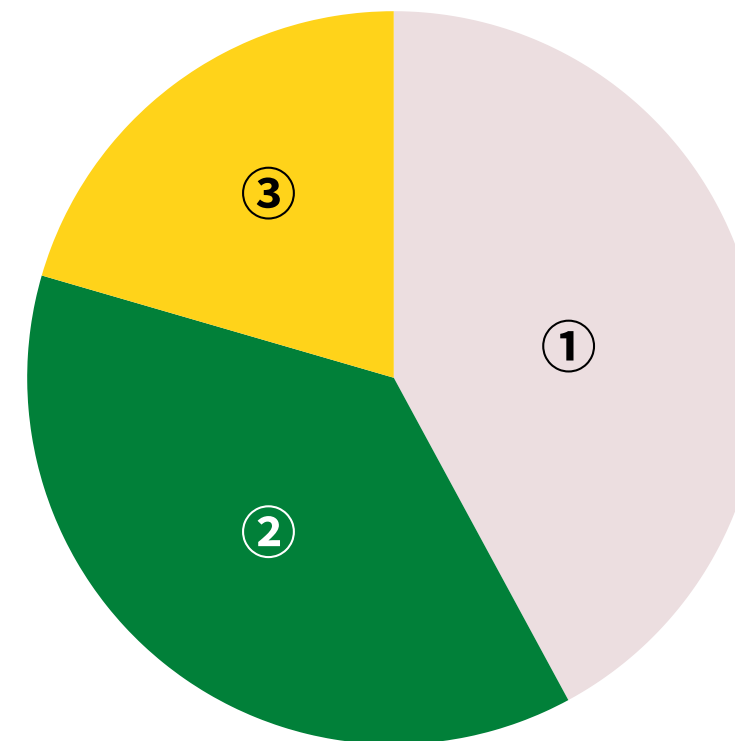
こくみん共済 2024意識調査

Q2.ハザードマップを見た媒体



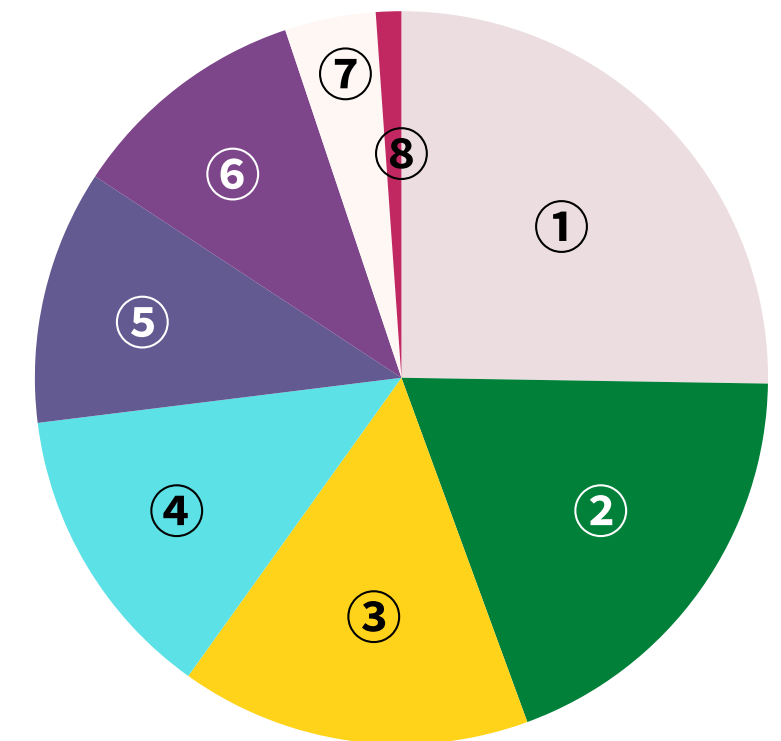
1. 自治体からの配布物：57.8%
2. 自治体サイト：38.2%
3. 各ポータルサイト：10.1%
4. 気象庁サイト：7.5%
5. 報道機関サイト：4.4%

Q3.ハザードマップ記載の
避難行動ができると思うか



1. できる・ややできる：42.1%
2. どちらともいえない：37.4%
3. できない、あまりできない：20.5%

Q3.ハザードマップ記載の
避難行動ができると思うか



1. TVのニュース番組：24.8%
2. Webニュース番組：10.42%
3. ニュースアプリ：12.92%
4. SNS (LINEやX、Facebookなど)：15.18%
5. 行政情報 (アプリや公式HP含む)：18.82%
6. 民間の防災関連アプリ：3.94%
7. その他：1.1%
8. 情報収集しない：11.02%

実は災害時にスマホやアプリは使えない！

➤ 能登半島地震(2024年1月1日発生)の復旧状況

携帯電話

各社とも、衛星通信などを駆使して、地震発生直後から応急復旧を開始。しかし、道路寸断などの影響で、完全復旧まで時間を要した地域もありました。

携帯会社	一時復旧	完全復旧
au	1月1日 地震発生直後から	2025年6月27日
docomo	1月1日 地震発生直後から	1月15日 (一部地域を除く)
SoftBank	1月1日 地震発生直後から	1月15日 (一部地域を除く)

電気の復旧

- 一時復旧：地震発生当日から開始。
翌日1月2日には約4万3千戸まで復旧。
- 全復旧：1月18日までにほぼすべての地域で復旧。
- 一部孤立地域では1月20日までに復旧。

携帯、電気とも地震発生から完全復活まで
約二週間もかかっています。



！ 必要な時にスマホやアプリは使えない

「紙」で避難場所マップを作成する理由



✓ 日頃から 『すぐに』『制限なく』確認

災害時には

- ①インターネット回線が混雑
- ②充電ができない
- ③機器自体の故障等

→電子機器は頼りにならない

i 情報格差を軽減

社内、家に掲示することで、
日頃から目の届くところに。
高齢者がいち早く情報を確認
するためには、慣れ親しんだ
紙媒体の方が有効的。

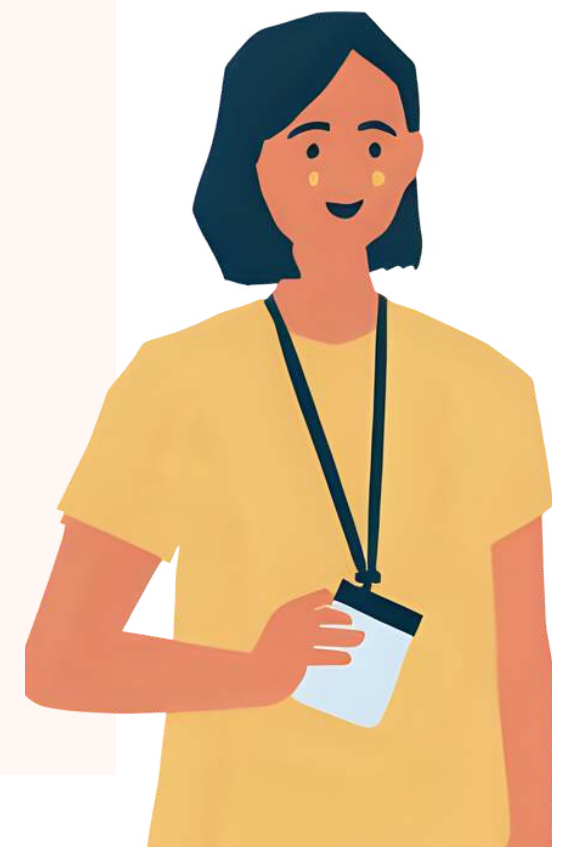
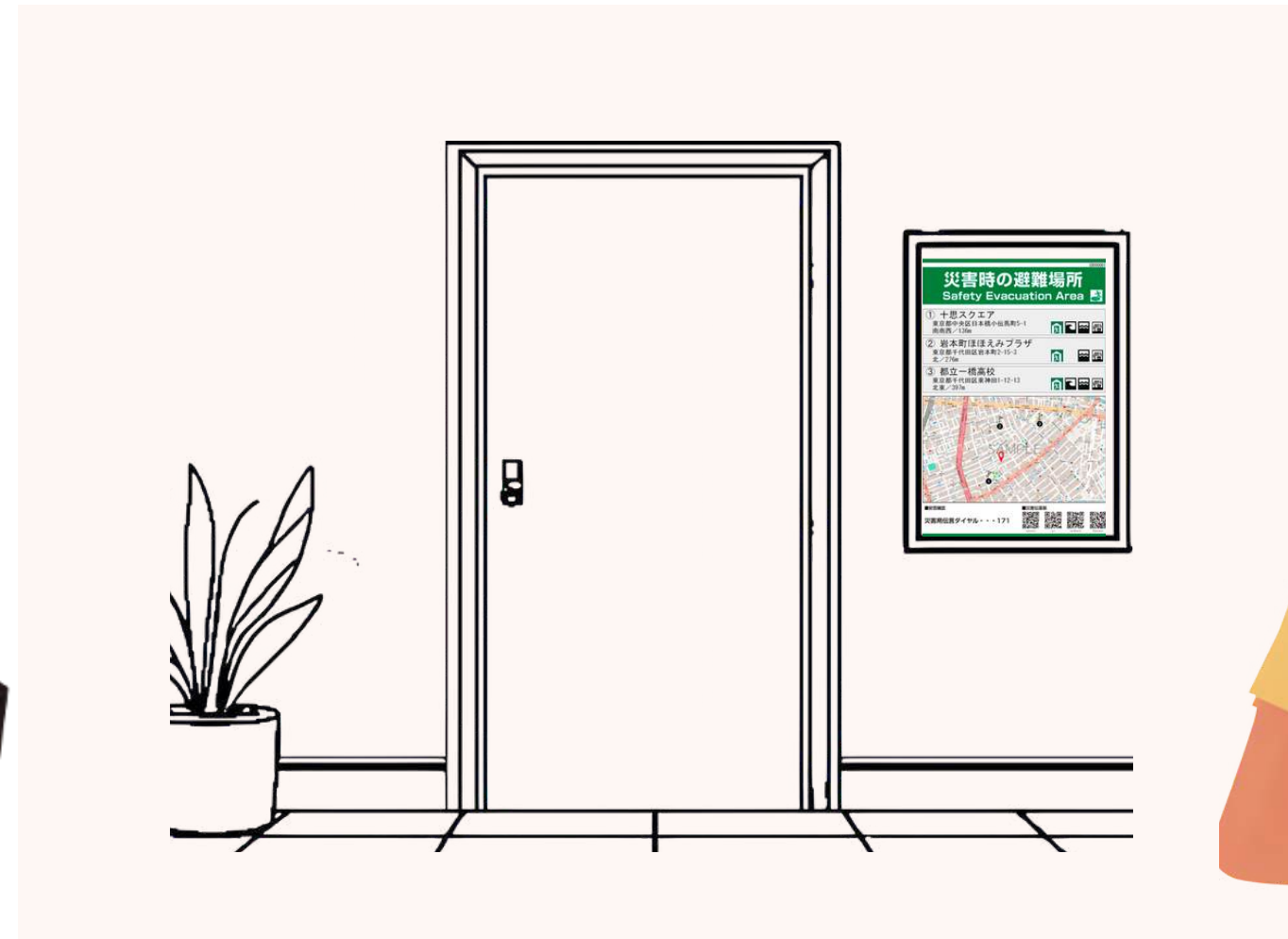
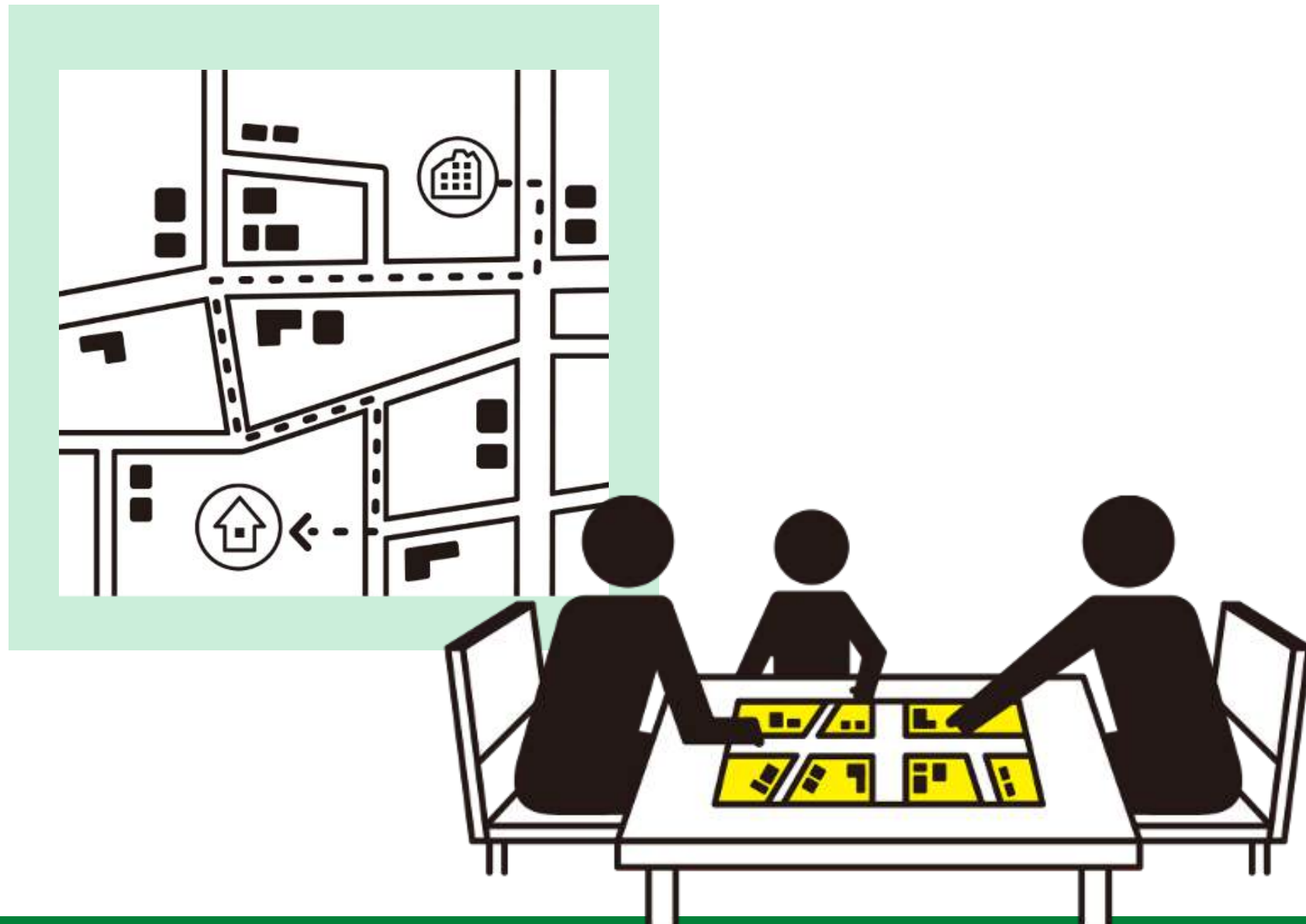
💧 水にぬれても大丈夫

水に強い用紙(ユポ)でできた
マップは水害時にも即時情報
の確認が可能。

一人ひとりの「避難場所マップ」を紙媒体で

- 避難場所は知られていない
- スマホやアプリはいざという時使えない

だから、紙媒体で一人ひとりや、施設ごとの「避難場所マップ」を持つことが大切です。



名刺サイズの活用シーン

災害が起きた時、
かならず「スマホが使える」とは限らない？

企業の皆さま

名刺入れやお財布に入れて、
避難場所がわかる「名刺サイズ」カード



職場からの避難先	自宅からの避難先
① 扇町運動広場 南南西／590m	① 下関市市民広場 北東／110m
② 下関市長府扇町第1運動場 西南西／856m	② 本行寺 北北東／302m
③ 掛州公園 西北西／1173m	③ 下関市武道館 東北東／341m

避難場所が対応する災害

地震	洪水／内水氾濫	津波／高潮	大規模な火災	崖崩れ／地滑り	土石流
----	---------	-------	--------	---------	-----



ポスターサイズの活用シーン

災害が起きた時、「土地勘がない人」は、どこに避難してよいのかわからない。

ホテル・商店・企業
旅行会社・行政施設の皆さま

- 来客者に促す
- 避難場所がわかる「**掲示用ポスター**」



掲示される場所イメージ

高齢者がいち早く情報を確認するためには、
慣れ親しんだ紙媒体の方が有効的

行政（自治会）の皆さま

- 地域(自治会)の指定
- 避難場所がわかる「**掲示用ポスター**」



避難場所マップの種類（サイズ）

A3サイズ



A4サイズ



はがきサイズ



B6サイズ



名刺・クレカサイズ



一人ひとりの避難場所マップの良さ

➤ 紙であることの重要性

- 1 登録地と避難場所の位置関係と距離が一目でわかる。
自治体の枠を超えて、最短距離での避難場所を表示できる。
- 2 目に見え、手に持てる安心感。
デジタルは実際に使えなかった、という能登地震の教訓がある
- 3 企業としての社員への安全配慮、さらに福利厚生、BCPへとつながるスタートライン。
BCPは社員の安全を守るものである。

災害から命や暮らしを守る備えづくりを
私たちと一緒に取り組みませんか？



BCPは、人の安全から始まる。

企業活動は社員がいてこそ。

その安全配慮は企業の義務として、BCPを福利厚生の一つとして考え、
私たちと一緒に取り組みませんか？



お問い合わせ



ジャグラコンパスについてのお問い合わせは